

工程	材料	調合 (重量)	所要量	塗布面積	施工用具	塗回数	間隔時間 (23℃)	可使時間 (23℃)	
1.素地調整	①素地に付着しているコケ・ゴミ・ホコリ・油脂類・異物は高圧洗浄等で取り除いて下さい。②劣化した既存塗膜は、電動工具・手工具を用いてケレン除去して下さい。③ゴミ・油等の付着物は除去し、水分10%、pH10以下に管理して下さい。④雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。⑤吹付面周辺は、汚れや損害を与えないように養生紙や養生テープ等で完全養生して下さい。								
2.下塗り	クオリティマルチサーフ	15kg	屋根	0.3~0.8 (kg/m ² /回)	18~50 (m ² /缶/回)	刷毛 中毛ローラー エアレス	1回	24時間以上	-
	無希釈		外壁	0.2~0.5 (kg/m ² /回)	30~75 (m ² /缶/回)				
3.上塗り	<ul style="list-style-type: none"> 上塗りにプレマテックス製品を施工する場合は、各標準施工仕様をご確認の上、施工して下さい。 上塗りに他社製品を施工する場合は、各メーカーの標準施工仕様に従って施工して下さい。※注：弊社までご相談下さい。 								

●クオリティマルチサーフ

(屋根・外壁用 1液水性形特殊シリコン樹脂サーフェーサー)

■荷姿

15kg缶

■適用基材

サイディングボード・コンクリート・モルタル・一般外壁・スレート瓦・セメント瓦・アスファルトシングル(水性上塗材限定)
※モニエル瓦、スカンジア瓦、陶器瓦には別途適用下塗材を塗布してからクオリティマルチサーフを施工して下さい。

■施工用具

刷毛、エアレス
ウールローラー(中毛以上)
※エアレスで施工する際はガンのフィルターとサクションフィルターを取り外して下さい。

■適用上塗材

水性系塗料、弱溶剤系塗料



注意事項

- クオリティマルチサーフは無希釈でご使用下さい。
- クオリティマルチサーフの施工後、上塗材は必ず翌日以降に塗装して下さい。
- エアレス等で一度に厚付けすると乾燥過程でひび割れの恐れがあります。
- シーリング材の上に施工することは避けて下さい。汚染・ひび割れ・剥離などの不具合が発生する恐れがあります。必要上塗布する場合は、シーリング材との塗り重ね適合性を十分確認の上、施工して下さい。
- 素地調整や水洗いが不十分だと剥離や光沢が出ない等の本来の塗膜性能を発揮出来ない恐れがあります。塗替えでは必ず高圧洗浄やブラシ等を使い、付着物や劣化塗膜を十分に除去して下さい。
- 水洗い後は日数を空け十分に乾燥させて下さい。また塗装面が雨や霧等で濡れている場合は、十分に乾燥するまで塗装しないで下さい。
- 塗装しない箇所は前もって塗料が付着しない様にしっかり養生して下さい。塗装箇所以外に塗料が付着した場合は直ちに拭き取って下さい。
- 希釈は仕様の調合割合を守り十分に攪拌して下さい。調合割合を誤ると光沢や隠蔽性が悪くなります。
- エアレスでの施工は飛散により周囲を汚しトラブルの原因になる事が有ります。飛散防止対策は確実に行って下さい。
- 常に結露が発生する地域・時期・場所での塗装は避けて下さい。
- 施工環境が気温5℃以下の場合・湿度85%RH以上の場合・結露が発生する可能性がある場合・外部の施工で降雨が予想される場合には施工を避けて下さい。仕上がり不良、剥離などの不具合が発生し、本来の塗膜性能を発揮出来ない恐れがあります。
- 夜露の早く降りる地域や季節では早めに塗装を終えて、十分に乾燥時間を確保して下さい。
- 工程間の間隔時間は仕様を厳守し、降雨後は下地や主剤の乾燥時間を確認してから塗装して下さい。
- 塗料は冬期は屋内で、その他の季節は直射日光や雨に当たらず、また子供の手の届かない場所に保管管理して下さい。
- 塗料や塗料の付いた布類及び使用済み容器等を廃棄する場合は、関連法規を厳守し、産業廃棄物として処分して下さい。(排水路・河川・下水・土壌等を汚染する場所へ廃棄しないで下さい。)
- 材料は、出来るだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク・保護メガネ・保護手袋を着用して下さい。
- 塗装後は、手洗い及びうがいを充分に行って下さい。
- 塗装中・塗装後は充分換気を行って下さい。
- 目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、出来るだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- 誤って飲み込んだ場合には、出来るだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには医師の診断を受けて下さい。
- 臭い・蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- 商品を取り扱う際には、各商品の容器に記載されている注意事項をよく守って下さい。又、詳細な内容は、安全データシート(SDS)をご確認下さい。